始めよう！ユニットケアでできること

愛全園の新館増築に伴い、ユニットケアがスタートして約10か月が経ちました。

慌ただしい毎日ですが、職員は『今までにない何かができないか？』『利用者の方がもっと喜ぶ顔が見たい！』と、さまざまなことを日々模索しています。

それぞれのユニットが、利用者の方といっしょに独自の取り組みを行うことで、その方の心に寄り添うケアを実践しています。

今回は、その一例として「なでしこ」ならびに「ぼたん」ユニットでの食事の様子をご紹介します。

より家庭的な食卓に

「なでしこ」と「ぼたん」ユニットでは、利用者の方がご自宅で使用されていた物や、ご家族が用意してくださった食器（茶碗や箸、コップなど）を活用し、食事を提供しています。

食事は大皿に盛られ、厨房から届きます。職員は利用者の方一人ひとりにそれを盛り付けていきます。

「どれだけ召し上がりますか？」「このくらいでいいですか？」と尋ねながら、食事を取り分けていきます。

「あら、おいしそうねぇ」と、利用者の方もいっしょにその様子を見守ります。ユニットケアならではの、ほのぼのとした光景です。

なじんだもので

なじみの深い食器を使うことを、利用者の方はどのように感じているのでしょうか。

利用者のYさんにお話を伺いました。

今まではプラスチックの食器だったので、少し味気ないような、親しみにくい感じでした。陶器でできたお茶碗だと、割れてしまうのではないかという心配があるけれど、おいしく感じられるし、やっぱり落ち着きます。

また利用者の方の中には、お茶の銘柄にこだわっている方もおられます。お気に入りのきゅうすで、好きなお茶を好きな時間に飲むのを、とても楽しみにしているそうです。

プラスチック食器で盛りつけた例
（食事はきざみ食のもの）

現在ぼたんユニットで利用者の方が
使われている食器を用いた例

十人十色のケアへ

ぼたんユニットでケアを担当している介護職員の原田さんに話を聞きました。

以前は、厨房で使われている統一した食器で食事が運ばれてきていたので、給食に似た雰囲気がありました。でも、利用者の方の好みに合わせたり、使い慣れた食器を使ったりすることで、食事の場面にも家庭的な温かみが生まれたと思います。

また同じく職員の田中さんからは、このような意見もありました。

利用者の方から「今日はご飯の量、少しにしてね」との要望があったとき、もしかして体調がよくないのかな？と考えられるようになりましたし、人それぞれ食べ物の好き嫌いがあるので、個別に取り分けることによって、個人の嗜好に対する理解が深まりました。

利用者の方一人ひとりと向き合えるようになり、これまでの従来型におけるケアでは気づけなかったことが見えるようになりました。

施設に入居されると、今までご自宅で過ごされてきたような生活を送ることは困難に感じますが、私たち職員は、どうすればより家庭に近づいたケアができるか、利用者の方の望むことは何か、を常に考えて臨んでいます。

利用者の方が愛全園で暮らせてよかったと思っていただけるよう支援していきたいと思います。

ぼたんユニット
副主任　清水美千代